

紫黒米 ‘朝紫’

独立行政法人農業技術研究機構・東北農業研究センターで育成されたアントシアニン系の色素（ポリフェノールの一種）を多く含む紫黒米で糯品種の‘朝紫’は本県において栽培すると‘キヌヒカリ’より出穂が4日早い早生の早である。紋枯病にはやや弱い、耐倒伏性強、脱粒性難であり、栽培が比較的容易である。収量性はやや低い、玄米の粒色は濃紫黒で外観品質が良い。‘朝紫’の玄米を5～10%入れ炊飯して作った赤飯あるいは赤餅の外観および食味は概ね好評であり、新しい用途として期待される。

表1 生育調査結果

品種名・系統名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	病害の発生程度		
							穂いもち	紋枯	縞葉枯
朝紫	8/9	9/16	84	19	281	0	0	1.8	0
比)キヌヒカリ	8/13	9/22	75	18	297	0	0	0.5	0

注)倒伏および病害の評価：0(無)～5(甚)

表2 収量調査結果

品種名・系統名	わら重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	屑米重 (kg/a)	玄米千 粒重(g)	玄米			脱粒性
					品質	形状	粒色	
朝紫	60.1	44.1	2.3	21.0	4	やや長	濃紫黒	難
比)キヌヒカリ	62.6	47.4	1.6	22.9	5	中	中飴	難

注)玄米品質の評価：1(上の上)～9(下の下)

